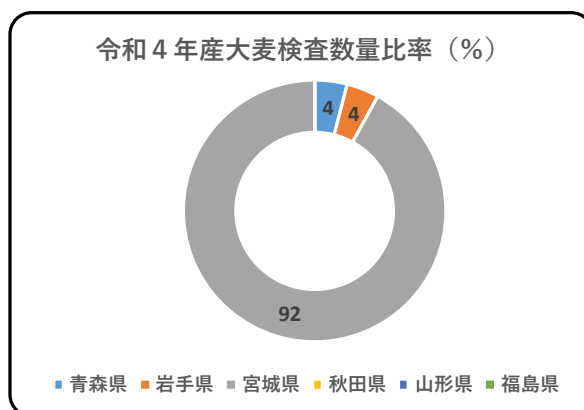
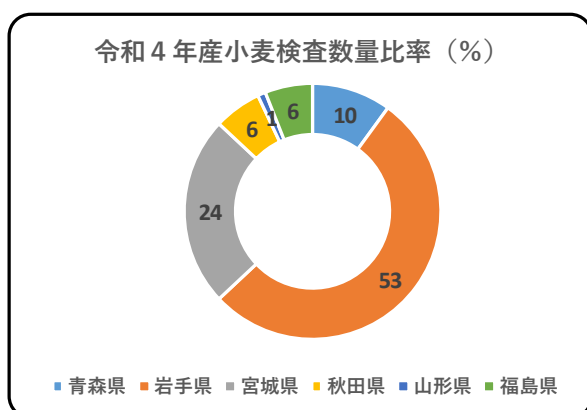


## ～「適期播種」と「排水対策」で高品質麦の安定生産を！！～

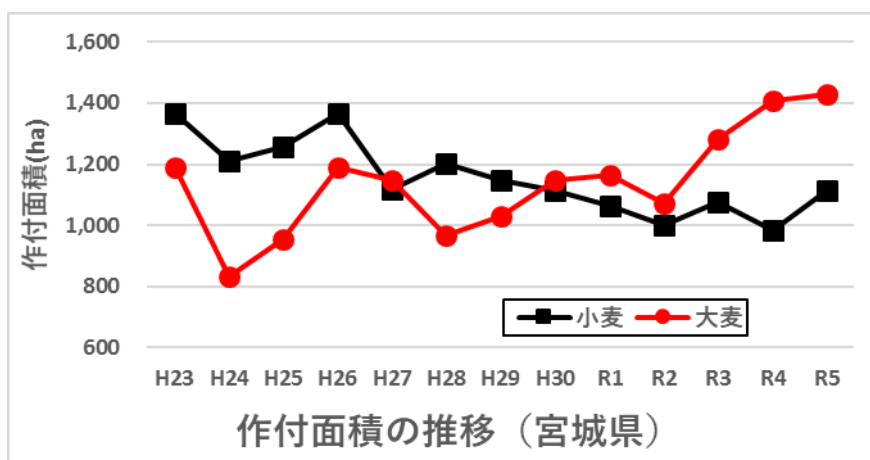
### 1 宮城県を中心とした麦の生産概況

#### (1) 東北地方と主産県の収量・品質【農林水産省 麦類の農産物検査結果より作図】

- ・小麦は、岩手県の53%に次いで多い24%を占めている。
- ・大麦は宮城県が東北一で、東北地方の92%を占める主産県である。



- ・本県における麦類の作付面積は、小麦・大麦ともに1,000～1,200ha前後で推移している。
- ・近年は、小麦が漸減傾向、大麦は漸増傾向にある。
- ・令和5年産は、主食用米の作付け減により、小麦・大麦ともに作付けが微増した。
- ・宮城県では、パン・中華めん用に適した小麦品種として、令和元年産から「ゆきちから」に代わり「夏黄金（なつこがね）」の作付けが開始され、面積が増加している（データ略）。



## (2) 宮城県の令和5年産の生育と品質概況【古川農業試験場 麦類作況試験より】

### 1) 播種～12月

- ・播種期（10月）の気温は平年並み・少雨で、出芽は概ね良好であった。
- ・出芽後～12月の気温は平年並み～やや高めに推移したため、概ね越冬前目標量を確保した。

### 2) 2月～3月

- ・平均気温は、平年より高く推移した。そのため、小麦・大麦ともに平年より早く1月～3月上旬には幼穂形成始期に達したと推察される。

### 3) 4月～5月

- ・平均気温は、平年より高く推移したため、減数分裂期は大麦が4月5日～16日、小麦は4月18日～21日頃で、いずれも平年より8～11日程度早まった。
- ・出穂期は、大麦の「シュンライ」が4月18～22日頃で平年より7～9日、「ミノリムギ」は4月22～26日頃で平年より7～9日、小麦の「シラネコムギ」は4月29日～5月1日頃で平年より6～8日早まった。
- ・出穂期以降も高温傾向は続き、平年より早く大麦は6月第2半旬頃から、小麦は6月第4半旬頃から収穫が始まった。

### 4) 作付面積と収量（下表参照）

- ・作付面積は小麦が1,098ha、大麦が1,426haで、収量は小麦が420kg/10a、大麦が341kg/10aで、前年産の小麦334kg/10a、大麦275kg/10aをそれぞれ上回った。

### 5) 品質（等級比率）

- ・小麦の1等比率は51.5%で、前年産の86.7%を下回った。
- ・大麦の1等比率は3.6%で、前年産の6%を下回った。

令和5年産 麦類の面積・収量・等級比率等（全農宮城県本部とりまとめ）

麦種	品種名	作付面積 * 1 (ha)	集荷数量 * 2 (t)	収量 * 3 (kg/10a)	等級比率 (%)		
					1等	2等	規格外
小麦	あおばの恋	66.84	269.470	403	50.1	41.4	8.5
	銀河のちから	22.00	93.960	427	0.0	92.6	7.4
	シラネコムギ	514.34	1,967.600	383	49.4	42.9	7.7
	夏黄金	494.32	2,276.050	460	55.6	33.5	11.0
	小麦 計	1,097.50	4,607.080	420	51.5	39.2	9.4
大麦	シュンライ	489.68	1,624.357	332	7.7	71.2	21.1
	ミノリムギ	238.81	882.725	370	0.9	71.3	27.9
	ホワイトファイバー	687.19	2,328.303	339	1.9	71.8	26.3
	その他	10.00	22.100	221	0.0	65.4	34.6
	大麦 計	1,425.68	4,857.485	341	3.6	71.5	24.9

\* 1 実播種面積

\* 2 令和5年9月における最終集荷実績

\* 3 集荷数量/作付面積

## 2 東北地方の1か月予報【9月30日～10月29日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・天気は数日の周期で変わる。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 60%、平年並みの確率 30%、低い確率 10%。
- ・降水量は、平年並みの確率 40%、多い若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は、平年並みの確率 40%、多い若しくは少ない確率 30%。

項目	地域	期間	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	東北地方	向こう1か月 09/30～10/29	10	30	60
		1週目 09/30～10/06	10	10	80
		2週目 10/07～10/13	20	50	30
		3～4週目 10/14～10/27	20	30	50
降水量	東北日本海側	向こう1か月 09/30～10/29	20	40	40
	東北太平洋側	向こう1か月 09/30～10/29	30	40	30
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 09/30～10/29	40	30	30
	東北太平洋側	向こう1か月 09/30～10/29	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 3 令和6年産麦類の生産に向けて

### (1) 適期播種

- ◆麦は冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である（北ほど早い播種）。
  - ・播種が遅れると分けつの発生が遅れ、根張りも悪く寒害にも弱くなる。
  - ・生育の遅れは、遅発分けつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生して品質が低下する。
  - ・播種量は、大麦で8～10kg/10a、小麦で9～11kg/10aを基本とする。
  - ・赤かび病等の防除のため種子更新、選種、種子消毒を確実に実施する。
- ◆小麦「あおばの恋」は早生品種で、シラネコムギ等に比べて生育相が速いため、早播きすると凍霜害（幼穂の凍死）が発生する恐れがある。そのため、他の品種より10日程度遅くする。また、あおばの恋の適正播種量は6～9kg/10aとする。

地域区分	小麦 あおばの恋	大麦	シユンライ
			シラネコムギ
		小麦	ホワイトファイバー
			夏黄金
北部平坦	10月15～30日		10月5～20日
南部平坦	10月25日～11月10日		10月15～30日
三陸沿岸	10月15～30日		10月5～20日

### (2) 排水対策

- ◆宮城県が東北地方で収量が高いのは、排水対策が徹底されているためである。
  - ・排水不良田では、出芽後や冬季の寒害等の影響により茎数が確保できない。
  - ・ほ場内にも明渠（30～40cm深）を設置し、本暗渠や弾丸暗渠を組み合わせる。